

問答有用

ワイド
インタビュー

644

読書会主宰者

山本多津也

猫町倶楽部代表

年間約9000人が参加する巨大読書コミュニティ「猫町倶楽部」。誰でも楽しめる仕掛けを作ること、高尚なイメージの読書会の敷居を下げた。

「本を語ることは自分を語ることです」



●プロフィール● やまもと たつや
1965年愛知県生まれ。立教大学経済学部卒業後、輸入住宅の営業を経て父が経営する会社に入社。その後、住宅リフォームの山本ハウジングに事業転換した。2006年9月に勉強会を立ち上げ、10年に「猫町倶楽部」に会の名称を改めた。52歳。

「読書会に参加するために本を読む人もいます。読書のきっかけになっているんです」

果は大きいと思います。異性の友人がいない人でも、猫町倶楽部に来ると話がしやすいそうです。

—— どのように参加者を募るので

山本 「読書会」というキーワードでインターネットで検索して、猫町倶楽部のホームページから申し込む人がほとんどです。たいいてい1人で参加します。年齢層は20代半ばから30代が最も多いです。サラリーマンが

—— 猫町倶楽部は「日本最大級の読書コミュニティ」と称していますが、どれくらいの人に参加するのですか。

山本 昨年は180回イベントを開催し、延べ約9000人が参加しました。東京、大阪、京都、名古屋、福岡、金沢の各会場で、文学のほかビジネス本、芸術関連、哲学・思想などジャンルごとに読書会を企画しています。読書会から派生した音楽や映画の会もあります。

通常、読書会は数人から十数人の小規模で行うものですが、猫町倶楽部は1回当たり平均50人、東京では90〜100人の規模で開催します。200人、300人集まることもあります。そういう大規模な読書会は国内では他にないと思います。

初対面でも盛り上がる

—— 読書会では具体的に何を

山本 毎回課題本を1冊設定して、7、8人ずつのグループに分かれて

本の感想を語り合います。グループごとに進行役を立てて、「おもしろかった」などと雑感を話すところから始まります。ほとんどの人が初対面ですが、すぐに打ち解けます。

作家や作品の時代背景、文学論について話すこともあります。行き着くところは自分語りです。本の話をするうちに、「主人公と自分はこんなところが似ている」という具合に、本を媒介に自分自身のことを語るようになるからです。

—— 猫町倶楽部で出会って結婚するカップルも多いと聞きます。

山本 猫町倶楽部で出会った夫婦は読書会の参加費を1人分無料にする「夫婦割」の制度があるのですが、現在43組が登録しています。2カ月に1度は結婚の報告があります。僕がすべてを把握しているわけではないので、実際はもっとカップルが成立していると思います。

「街コン」などの婚活イベントは話題の探り合いから会話を始めますが、読書会はそれをショートカットできる。本を媒介に自分を語れる効

●聞き手●花谷 美枝(編集部)

安吾の「桜の森の満開の下」、『ジョージ・オーウェルのSFの傑作』「九八四年」など古典的な名作を読む会もある。

週末の開催が多いが、平日夜のイベントもある。費用は1500〜2000円程度。読書会参加者の8割が、飲食店で行われる懇親会まで参加するという。

—— 「活字離れ」と言われて久しいですが、猫町倶楽部にはたくさんの方が集まります。

山本 活字離れが進んでいる印象はないです。みんな結構読んでますよ。猫町倶楽部に来る人の多くは、本を読むのが好きだけれど、周囲に本好きの人がいない人。「本を読んでいる」というだけで勉強家だ、優秀な人だと思われてしまうから、身近な人とは本の話がしにくいという人は多いですね。本が好きなのに集まりに来れば、多少マニアックな話をしても大丈夫という安心感もあると思います。

—— 課題本の読了を参加条件にしていますね。

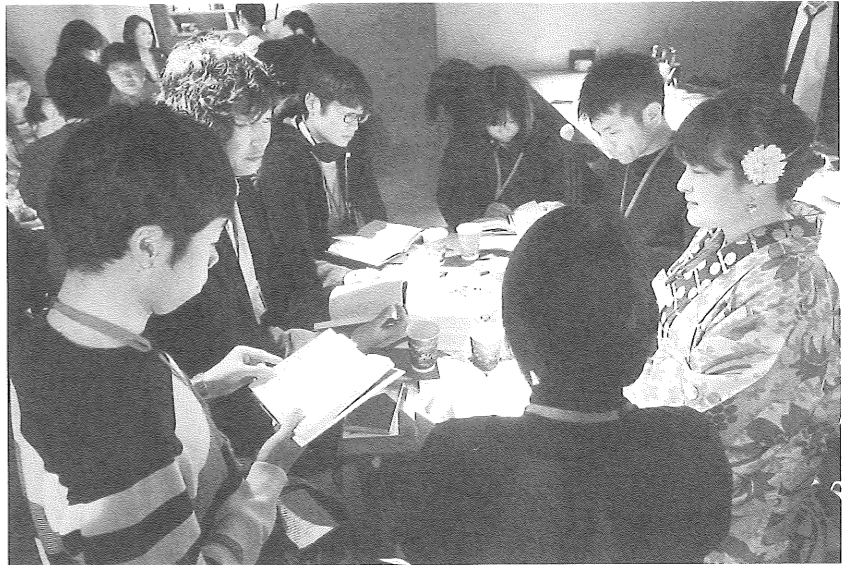
山本 営業行為や異性との出会いだけを目的に来る人を排除するためです。各会の参加者の属性を絞り込むという意図もあります。「読み終わっていないけれど来た」という人は、当日の受付で参加をお断りします。

撮影：佐々木 龍

中心ですが、学生や主婦もいます。課題本の作家のファンだから参加するという人は全体の1割くらいで、本を通じて誰かとコミュニケーションをとりたくて来る人が圧倒的に多いと思います。

「活字離れ」感じない

本について語り合い、理解を深める読書会は、知人同士の私的な



猫町倶楽部の読書会。着物で参加する女性もいる

います。出版社からの売り込みはまったくないです。

——今年2月にはスベインの哲学者、オルテガ・イ・ガセットの『大衆の反逆』を課題本にしています。

1930年発行の古典ですが、世界的にポピュリズムへの警戒が強まる中、あらためて注目されている一冊です。社会情勢や話題性も本を選ぶ基準になりますか。

山本 話題性や、たくさん人を集められる本であるかどうかはあまり意識していません。ボランティアで運営している

ので、自分の興味が最優先。僕自身も楽しみたいですから。

——読書会に課題本の著者をゲストに招くこともありますね。

山本 作家の中村うさぎさん、田中康夫さん、現代美術家の会田誠さんなど、これまでに100人ほどの著者に来ていただきました。トークショー形式でゲストの話を聞くだけでなく、各テーブルを回っていただいて参加者と直接話をする時間も設けます。読者にとって著者と直接会話

する機会が貴重なのはもちろんですが、著者にとっても読者の反応にダイレクトに接する機会は新鮮なようです。

出演交渉は、ツイッターなどのSNSを通じて直談判します。本人に直接アタックすると引き受けてもらえるもので、断られるのは10回に1回くらいです。一番最初にゲストを呼んだのは、10年くらい前。ジャズミュージシャンで文筆家の菊地成孔さんをお招きしました。名古屋で猫町倶楽部を始めたばかりの頃で、僕らがどんな活動をしているのかほとんど誰も知らなかった頃です。菊地さんも「行くかどうか」相違迷った」と戸惑いながら来てくれました（笑）。

東京では作家に会えるイベントがたくさんあります。が、名古屋はそういう文化的なイベントがとて少ない。「東京はいいなあ」とみんな思っている。だったら自分で声をかけてみ



映画を題材にした「シネマテーブル」。音楽の会も開催している

ら毎週のように参加者が増えて、1年後には毎回40人くらい集まるようになりました。会の様子を中日新聞が取材に来たことでさらに人が増えました。

勝間和代さんのビジネス書がブームになった頃だったので、注目を集めやすかったのだと思います。やがて東京に転勤したメンバーから「東京でもやろう」と声がかかり、09年から東京でも開催するようになりました。

いぶ削っているのも事実です。猫町6に対して本業は4くらいになっています。

——本業のリフォーム会社は大丈夫なんでしょうか。

山本 何とかやっています（笑）。なぜそこまでして続けるのですか。

山本 自分が楽しめるし、みんなも楽しめるからですね。ただ、運営のキャパシティーはほぼ限界なので、これ以上拡大するには、読書ができる猫町倶楽部のカフェをつくるとか、そういう形で収益事業化していく必要があると思います。その時には専属の社員を雇うことになるでしょう。ボランティアに支えてもらう今の体制とは違うスキームを作っていく必要があると思います。

——猫町倶楽部をどのように発展させていきたいですか。

山本 読書会が本の読み方のひとつとして認知されるといいなと思っています。同じ本を読んだという共通体験が会話のネタになり、話が盛り上がり人がつながっていくのはとても面白い。出版不況と言われるけれど、そういう読み方を出版社にも考えてもらいたいです。猫町倶楽部は、知的さを追求するというよりは、おもしろい演出も織り込みながらユルく、楽しい場としてやっていきたいです。

な仕掛けを考えています。

例えば、各読書会では本のテーマに合わせた「ドレスコード」を設定しています。服装などにその要素を取り入れてきてくださいという趣旨です。といっても、岸本佐知子さんの編・訳の『恋愛小説集』の時は「変」、マヌエル・プイグの『蜘蛛女のキス』なら「クモ」とか、単純なものです。みんな適当に小物などで表現しますが、1割くらいの参加者は本気です（笑）。衣装を自作したり、仮装に近い服装で参加する人もいます。

ドレスコードを設定することについては、当時の常連参加者に大反対されました。でも、やってみたら参加者がわっと広がるきっかけになった。知的な集まりと思われがちな読書会の敷居を下げることでよかったかもしれません。

オシャレをして集まる場というのはなかなかないものなので、喜ばれている面もあります。

100人が手弁当で運営

各都市で開催される猫町倶楽部のイベントに、山本さんは時間が許す限り顔を出す。だが本業は愛知県名古屋にある住宅リフォーム会社の社長だ。

会形式の勉強会をやるうと声をかけたのが始まりです。現場を着たままの人が来るような、40代のオヤジの集まりでした。

最初は内輪の集まりだったので、連絡掲示板代わりに使っていたミクシイのページを見た20代の男子が参加してきたんです。驚きました。名古屋にはビジネスの勉強会みたいなものが少なかったから、インターネットで見つけた勉強会に興味を持ったのかもしれない。それか

「結局みんな、誰かと話したい。だから読書会に来る」

——本業をやりながら各都市で読書会を開催するのは大変ですね。

山本 猫町倶楽部を商売にしているわけではないので、参加受付や名簿の整理、おカネの管理、会場のセッティングなどは、僕とボランティアの人たちでなんとかやっています。

今、100人以上の人にボランティアで運営を手伝ってもらっています。人は楽しいことだったら無料奉仕で動くものなんです。僕自身もそう。ただ、プライベートの時間をだ